

平成 26 年度秋冬作野菜花き関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

(公財)日本植物調節剤研究協会

平成 26 年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成 27 年 7 月 14 日(火)にホテルモナーク鳥取において開催された。

この検討会には、試験場関係者 23 名、委託関係者 7 名ほか、計

38 名の参集を得て、除草剤 5 薬剤(16 点)、生育調節剤 2 薬剤(19 点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

A. 野菜関係 除草剤

薬剤名 有効成分および含有率(%) [委託者]	作物名	ねらい	判定	判定内容
1. ANK-553(改) 乳 ペンディメタリン:30.0% [BASFジャパン]	タマネギ	年次変動の確認(散布水量150L/10a)	実 (従来どおり)	実) [秋冬作, 露地; 一年生雑草(キク科, ツクサを除く)] ・定植前(マルチ前) 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・300~500mL<70~150L>/10a [秋冬作, 露地; 一年生雑草(キク科を除く)] ・定植後, 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・300~500mL<70~150L>/10a
2. BAH-0805 乳 ジメテナミトP:19.7% ペンディメタリン:23.1% [BASFジャパン]	タマネギ	タマネギの定植前への拡大 (マルチ栽培:初年目)	実・継 (従来どおり)	実) [秋冬作, 露地; 一年生雑草] ・定植後 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・200~400mL<100L>/10a 継) ・定植前での効果, 葉害の確認
		タマネギの定植前への拡大 (無マルチ栽培:初年目)		
3. BAS-656 乳 ジメテナミトP:64.0% [BASFジャパン]	ブロッコリー	効果・葉害の確認 (秋冬作への拡大:初年目)	継	継) ・効果, 葉害の確認
4. HPW-105 乳 トリフルラリン:33% IPC:11% [*保土谷UPL ダウ・ケミカル日本]	タマネギ	タマネギ定植後雑草発生前処理における 除草効果・葉害の検討(2年目)	実・継	実) [秋冬作, 露地; 一年生雑草] ・定植後, 雑草発生前 ・全面土壌処理 ・300~400mL<100L>/10a 継) ・薬量300mL<100L>/10aでのキク科に対する除草効果 の確認
5. NH-007 フロアブル グリホサートイソプロピルアミン 塩:30.0% ピラフルフェンエチル:0.16% [日本農薬]	タマネギ	タマネギ畦間処理による一年生雑草の防除 (初年目)	継	継) ・効果, 葉害の確認

B. 平成26年度 春夏作分 野菜関係生育調節剤

1. KT-30S 液 ホルクロルフェニユロン:0.1% [協和発酵バイオ]	トマト	放射状裂果軽減(2年目)	—	・前回の判定どおり(継)
--	-----	--------------	---	--------------

C. 平成 26 年度 春夏作分 花き関係生育調節剤

1. NPK-063 水和 フルルプリミドール:50% [日本農薬]	カイズカイ ブキ	新梢伸長抑制による剪定軽減 倍量葉害	実・継	実) [ベニカナメモチ, カイズカイブキ, ヒバ; 新梢伸長抑制による剪定軽減] ・萌芽2週間前または新梢伸長開始2週間前 ・土壌処理 ・800~2000g<100~300L>/10a 継) ・マテバシイでの効果, 葉害の確認
	ヒバ	新梢伸長抑制による剪定軽減 倍量葉害		
	ベニカナメ モチ	新梢伸長抑制による剪定軽減 倍量葉害		
	マテバシイ	新梢伸長抑制による剪定軽減 倍量葉害		